日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805　東京都新宿区矢来町 65
電話 03（5228）3171　FAX 03（5228）3175
発行者　総主事　司祭　矢萩新一

能登半島地震被災者支援レポート

～ ゆたかな里山の風景に残る傷跡… ～

管区事務所総主事　司祭　エッサイ　矢萩新一

先日、京都教区の対策室のボランティアで、能登半島の珠洲に行ってきました。沖縄や神戸から支援に駆けつけてくだった方や京都教区のメンバーと一緒に、拠点となっている金沢から1時間程のところにある閉所した児童養護施設に集まりました。3時間をかけて北上し、3時間程作業をして、4時間をかけて帰ってくるという行程で、京都教区J'sキャンプの中高生たちが数日前に作業してくださった珠洲の信徒さんの珠洲焼に使用する薪の積み直しなどをお手伝いさせていただきました。

薪の積み直し作業

普段なら2時間程の道のりですが、能登半島を縦断する「のと里山海道」は、斜面や道路の崩落個所に応急処置をして何とか片側1車線が確保されてる状況で、往復するだけで時間を要しました。海岸線の家では津波の被害、古い瓦屋根の家は倒壊、道路が陥没したのかマンホールが飛び出し、道路には亀裂と、金沢に居た頃に目にしていたのどかな里山の風景が一変していました。今回、私は片付けや補修のお手伝いを数時間しただけですが、他の地域も含めて、日常を取り戻すのにはまだまだ時間がかかる。地震発生から3か月が経った現状でした。

飛び出したマンホール

能登半島にはプロテスタント教会が多数あり、カトリックの教会もあります。能登ヘルプというプロテスタント超教派の支援団体が立ち上げられて、普段からつながりもあった石川県内の諸教会と協力し合って支援活動を早くから行なって

口会議・プログラム等予定

（2024 年 4 月 25 日以降・前回未掲載分）

4 月

23 日（火）正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔+Web〕
25 日（木）人権問題担当者会議〔Web〕
25 日（金）いのちをみつめる講演会〔Web〕
30 日（火）セーフチャーチ・タスクチーム会議〔Web〕

5 月

8 日（水）～10 日（金）祈祷書改正委員会〔ナザレの家〕
10 日（金）法憲法規委員会〔管区事務所〕
13 日（月）いのちをみつめる祈りの集い〔Web〕
16 日（木）日韓協働委員会〔大阪教区事務所〕
17 日（金）ウィリアムズ主教記念基金運営委員会〔立教〕
27 日（月）総会前日準備〔東京教区・聖アンデレ教会 / 聖アンデレホール〕
28 日（火）臨時主教会〔東京教区事務所〕
28 日（火）～30 日（木）第 68（定期）総会〔東京教区・聖アンデレ教会 / 聖アンデレホール〕

6 月

2 日（日）原発のない世界を求める週間・講演会〔Web〕
4 日（火）正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔+Web〕
5 日（水）ナザレ委員会〔ナザレの家〕
6 日（木）神学教理委員会〔横浜山手聖公会〕
7 日（金）青年委員会〔管区事務所〕
11 日（火）～13 日（木）　定期主教会〔ナザレの家〕
14 日（金）正義と平和・原発問題プロジェクト会議〔Web〕
21 日（金）～23（日）　沖縄週間 / 沖縄の旅〔沖縄〕

※『管区事務所だより 2024 年 5 月号』は、日本聖公会第 68（定期）総会“5 月 28 日（火）～30 日（木）”開催のため、休刊いたします。よろしくご了承ください。

（次頁へ続く）

おられます。聖公会の信徒方も重機を携えて輪島や各地で活躍してくださっています。引き続きお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

また、戦火や災害によって困難のうちにある方々の安全が守られ、希望の光が届けられますようにとお祈りしたいと思います。

「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって、あなたがたを希望に満ち溢れさせてくださいますように。」

(ローマの信徒への手紙 15:13)

津波による被害

倒壊した家屋

(前頁より)

7 月

5 日 (金) 正義と平和委員会〔Web〕
11 日 (木) 日韓協働合同会議〔Web〕
22 日 (水) ナザレ委員会〔ナザレの家〕

＜関係諸団体会議・他＞

4 月 26 日 (金)「永住取り消し反対」オンライン緊急集会〔Web〕
28 日 (日) ～ 5 月 3 日 (金) 首座主教会議〔ローマ〕
5 月 11 日 (土) 立教学院創立 15 周年記念感謝礼拝･式典･祝賀会〔立教〕
13 日 (月) 日本宗教連盟監査〔明照会館〕
23 日 (木) 狭山集会キリスト者前段集会〔日比谷〕
6 月 18 日 (火) ～ 19 (金) 日本聖公会婦人会会長会〔横浜〕
7 月 3 日 (水) ～ 24 日 (水) USPG リーダーシップ研修〔アジア学院〕
9 日 (火) NCC 常議員会〔Web〕
15 日 (日) 北海道教区宣教 150 周年記念礼拝〔札幌〕

□各教区

北海道教区

・宣教 150 年記念礼拝　2024 年 7 月 15 日 (月･休) 10 時半　札幌キリスト教会　説教 : 主教アシジのフランシス西原廉太　内容 : 記念礼拝の他、黙想会、展示会の企画、『福音と私』の分冊での発行、記念グッズ製作など、随時『北海之光』記事等により各教会へ活発な広報・案内を予定。(2024 年 4 月現在)

□管区

・日本聖公会第 68(定期) 総会が、日本聖公会東京教区　聖アンデレ教会および聖アンデレホールにおいて 5 月 28 日 (火) ～ 30 日 (木) まで開催されます。会期中、首座主教選挙も行なわれます。主にあるみなさま、ことに日本聖公会に属するすべての信徒・聖職のご加祷をお願いいたします。

□主事会議

第 67 (定期) 総会期第 8 回　2024 年 4 月 1 日(月)

＜主な報告・協議＞

1. 平和宣教教育活動資金への京都教区の J’s キャンプ　参加者 3 名からの申請について、3 万円ずつ合計 9 万円の支援を承認(メール稟議済追認)。
2. 祈祷書改正委員会からの研修支援資金への申請について、2 名の国際的な典礼学者

を招聘しての祈祷書改正に関するコンサルティング（2/24-3/1）の補助として 37 万円の支援を承認（メール稟議済追認）。

3. 海外出張について、通訳者としてサイモン・クレイさん（首座主教会議通訳 4/28-5/3 ローマ）、卓志雄司祭（外キ協国際シンポジウム 5/13-15 大田・日韓カルト対策セミナー 6/19-21 大邱）への出張について、承認した。
4. 2025 年・2026 年度予算案について、承認し常議員会に諮ることとした。
5. セーフチャーチ・ガイドラインの周知や教役者遺児教育基金の活用（教役者家族のセーフティーネット）について、意見を交換した。
6. 大斎克己献金のコインの取り扱い方法や会議資料のペーパーレス化について、意見を交換した。

□常議員会

第 67（定期）総会期第 11 回　2024 年 4 月 19 日（金）

＜主な決議事項＞

1. 基本財産変更に関して、北海道教区（聖マーガレット教会境内地取得）、東北教区（大館聖パウロ教会牧師館解体・除却・用途変更、旧新庄聖マルコ教会建物解体・除却、旧鶴岡聖公会建物解体・除却、旧新庄聖マルコ教会・旧新庄聖マルコ幼稚園舎跡地売却・除却、旧鶴岡聖公会跡地売却・除却、仙台基督教会西の平聖パウロミッション建物解体・除却、西の平聖パウロミッション建物跡地売却・除却、教区主教主教邸建物解体・除却、主教邸跡地売却・除却）、大阪教区（大阪城南キリスト教会 2 階の一部貸与・用途変更）を承認した。
2. 聖公会年金の規約改正総会議案（教区・管区事務所員の加入拡大）に関して、遺族年金を含む提案として年金委員会から提出予定の規約案を確認した。
3. 2025 年・2026 年度収益事業会計予算案および一般会計予算案に関して、教役者給与調整支援資金への繰出しの増額と祈祷書改正委員会の予算を明記することとし、承認した。
4. 会議資料などのペーパーレス化に関して、協議し、タブレットでデータを表示させるなど、主事会議で具体的な提案を求めることとした。

†逝去者　霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

司祭　ヨハネ下田屋（しもだや）一朗（京都教区・退）
2024 年 3 月 31 日（日）逝去　（89 歳）

主教　ペテロ植田仁太郎（東京教区・退）
2024 年 4 月 8 日（月）逝去　（83 歳）

■訂正

京都教区能登半島地震対策室からのご連絡を受け、『管区事務所だより第 395 号』　2024 年 3 月号 3 頁掲載　ボランティア募集要項の内容について：5. 募集条件　最終行「京都教区より、交通費の補助等がございます。」とありましたが、「交通費の補助等は京都教区内のみ」とのことでした。他教区からのボランティア交通費にも補助等ありとの誤解を招く表現のため、5. 募集条件最終行の削除をご希望です。よろしくご了承のほど、お願いいたします。

なお、上記ボランティア募集受付は終了いたしましたことも合わせて、お知らせいたします。

管区事務所

≪人事≫

東京

執事　クララ佐久間恵子　2024 年 4 月 1 日付　主教座聖堂付とする。
下町教会グループでの協働ならびに聖アンデレ教会主日勤務を命じる。

司祭　ジェームス須賀義和　2024 年 4 月 1 日付　北関東教区との協働のため、東松山聖ルカ教会にて月 1 回の礼拝奉仕を命じる。

司祭　ダビデ倉澤一太郎　2024 年 4 月 1 日付　北関東教区との協働のため、日立聖アンデレ教会、下館聖公教会にてそれぞれ月 1 回の礼拝奉仕を命じる。

執事　セシリア髙柳章江　2024 年 4 月 1 日付　北関東教区との協働のため、小山聖ミカエル教会にて月 1 回の礼拝奉仕を命じる。

中部

聖職候補生　フランシス諸岡研史
2024 年 4 月 20 日　公会の執事に按手される。

京都

＜信徒奉事者認可＞　2024 年 4 月 1 日付（任期 1 年）
（富山聖マリア教会）　ピリポ廣瀬康夫
（上野聖ヨハネ教会）　ルカ木村直史
（岸和田復活教会）　チャニング熊取谷志郎、ヒルダ岸　雅子
（京都復活教会）　グレゴリオ加藤　大
＜信徒奉事者認可および分餐許可＞　2024 年 4 月 1 日付（任期 1 年）
（奈良基督教会）　ダビデ松本　誠
（聖アグネス教会）　サムソン眞継　穰、サムエル藤村大輔

大阪

主教　アンデレ磯　晴久　2024 年 3 月 31 日付　聖ルシヤ教会、聖ルカ教会管理牧師の任を解く。

司祭　ステパノ柳　時京　2024 年 4 月 1 日付　聖ヨハネ学園チャプレンに任命する。

司祭　バルナバ小林　聡　2024 年 4 月 1 日付　聖贖主教会、並びに大阪聖パウロ教会牧師に任命する。

司祭　ペテロ金山将司　2024 年 4 月 1 日付　プール学院アシスタント・チャプレンに任命する。（週 3 日間・任期 1 年）

司祭　ヒューム　ユーワン　2024 年 4 月 1 日付　大阪教区英語礼拝担当に任命する。
東光学園チャプレンに任命する。

司祭　テモテ内田　望　2024 年 4 月 1 日付　（学）芦屋聖マルコ学園　認定こども園　愛光幼稚園チャプレンに任命する。

司祭　マルチン韓　相敦（退）　2024 年 4 月 1 日付　主教アンデレ磯晴久のもと尼崎聖ステパノ教会（定住）嘱託を命ずる（任期 1 年）

司祭　ウイルソン　ウォーレン（退）
2024 年 4 月 1 日付　管理牧師司祭テモテ内田望のもと芦屋聖マルコ教会で 4 月中の主日礼拝の協力を委嘱する。

主教 サムエル大西 修（退）	2024年4月1日付	中部教区からの要請を受け、中部教区内各教会において主日礼拝への協力を許可する。（任期1年）
司祭 ダニエル山野上素充（退）		
	2024年4月1日付	司祭ステパノ柳時京のもと大阪聖ヨハネ教会での礼拝の協力を委嘱する。（任期1年）
司祭 ペテロ岩城 聡（退）	2024年4月1日付	司祭ペテロ金山将司のもと聖ルシヤ教会、司祭ジョイ千松清美のもと東豊中聖ミカエル教会での礼拝の協力を委嘱する。（任期1年）
司祭 ペテロ竹林徑一（退）	2024年4月1日付	司祭ステパノ柳時京のもと川口基督教会嘱託（川口基督教会150年誌執筆担当）、司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会での礼拝の協力を委嘱する。（任期1年）
	2024年4月1日付	京都教区からの要請を受け、第4主日京都教区内教会において主日礼拝等への協力を許可する。（任期1年）
司祭 ペテロ齊藤 壹（退）	2024年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと大阪聖三一教会嘱託、司祭ペテロ金山将司のもと聖ルシヤ教会、司祭ヒュームユーワンのもと聖ルカ教会での礼拝の協力、並びに博愛社、聖バルナバ病院、こひつじ乳児保育園チャプレンを委嘱する。（任期1年）
司祭 ウイリアムス竹内信義（退）		
	2024年4月1日付	司祭ジョイ千松清美のもと東豊中聖ミカエル教会での礼拝の協力を委嘱する。（任期1年）
司祭 施洗者ヨハネ山本 眞（退）		
	2024年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと富田林聖アグネス教会嘱託、司祭ペテロ金山将司のもと恵我之荘聖マタイ教会での礼拝の協力を委嘱する。（任期1年）
司祭 ヨハネ木村幸夫（退）	2024年4月1日付	司祭バルナバ小林聡のもと大阪聖パウロ教会での礼拝の協力を委嘱する。（任期1年）
	2024年5月1日付	管理牧師テモテ内田望のもと、芦屋聖マルコ教会主日礼拝の協力を委嘱する。（任期1年）
司祭 テモテ宮嶋 眞（退）	2024年4月1日付	司祭ヨハネ古澤秀利のもと聖ガブリエル教会、司祭ヒュームユーワンのもと聖ルカ教会、並びに大阪教区各教会での礼拝の協力を委嘱する。（任期1年）
	2024年4月1日付	桃山学院大学、桃山学院教育大学において嘱託チャプレンに任命する。（任期1年）

ヴェロニカ薦田久美子	2024年4月1日付	日本聖公会聖職候補生に認可する。

神戸

主教　オーガスチン小林尚明	2024年4月1日付	神戸聖ペテロ教会管理牧師を任命する。
司祭　パウロ松本正俊（退）	2024年4月1日付	主教オーガスチン小林尚明のもとで呉信愛教会において嘱託司祭として勤務することを委嘱する。（任期1年）

＜信徒奉事者認可＞　2024年4月1日付（任期1年）
（徳山聖マリア教会）　テレサ寺田弘枝
（神戸聖ヨハネ教会）　ヨシュア埒田直文

沖縄

司祭　田辺アイリーン	2024年2月5日付	管理牧師司祭イザヤ金汀洙のもとで、北谷諸魂教会において、嘱託司祭として勤務することを委嘱する。（任期1年）

≪教会・施設≫

山形聖ペテロ教会（東北）	電話番号変更	旧固定電話番号廃止（023-622-7328） 新電話番号　070-3399-2486

日本聖公会第68（定期）総会を迎えるにあたって

宣教協議会（清里）からの「呼びかけ」をもとに

日本聖公会首座主教　主教　ルカ武藤謙一

＋主イエス・キリストのご復活をお慶び申し上げます。

今年2月25日付けで日本聖公会第68（定期）総会が公示されました。2022年の第67（定期）総会決議第10号により、かつての聖公会センターを用いて新規収益事業を行なうことに伴い、旧牛込聖公会聖バルナバ教会の聖堂が管区事務所になったため、第68（定期）総会は東京教区主教座聖堂聖アンデレ教会を会場にして、5月28日（火）～30日（木）まで開催されます。

今総会にはいくつかの大切な議案も提出されますが、わたしは今総会では諸報告に時間をかけ、丁寧な報告をお願いしたいと考えています。

前回の定期総会では、上述の新規収益事業の件（決議第10号）、ナザレ修女会残余財産寄付に伴う基本財産設定の件（決議第14号）、また聖公会年金受給額減額のために「日本聖公会年金

規約」一部改正の件（決議第9号）などが決議されました。それぞれ決議に基づいた取り組みがなされており、新規収益事業に関しては旧聖公会センターの改修工事が終わり、新たな賃貸事業が始まりました。またナザレ修女会閉院に伴う残余財産の受入れとナザレの家の運営についてはナザレ委員会また管区事務所の主事、職員によって今後の用い方など協議また事務作業が行なわれてきました。

昨年11月には日本聖公会宣教協議会が清里で開催され、2 月 1 日付けで「宣教協議会からの呼びかけ」が出されました。日本聖公会がこれからの 10 年間、何を大切にして宣教に取り組むかを協議して出された「呼びかけ」です。総会では限られた報告になると思いますが丁寧な報告を期待しています。また、この宣教協議会のなかでもプログラムになった各宣教協協働区からの報告は、今後の宣教協働区、各教区の宣教協働の取り組みにとって重要であると考えます。特に北関東教区と東京教区、また北海道教区と東北教区の教区再編に向けての取り組みは、他の教区にとっても参考になるでしょう。

「セーフチャーチ」の取り組みはこれからの日本聖公会各教区、教会、施設にとって取り組まなければならい課題の一つです。ACC17 で出された『アングリカン・コミュニオン諸管区のすべての人　ーことに子ども、青年、弱い立場の大人ー　の安全を高めるためのガイドライン』を日本聖公会の実情を踏まえたものとするために検討チームが設けられ、検討チーム版「セーフチャーチ・ガイドライン」が出され、さらにガイドラインの施行のための検討を行なっています。

上記の課題を含め各委員会などの報告を十分に聞き、理解を深め、各教区、教会での取り組みに繋げていくことを願っています。

日本聖公会祈祷書改正に関して多くの皆さんが関心をお持ちのことと思います。祈祷書改正については、2020 年の第 65（定期）総会で、祈祷書改正委員会設置継続が決議されており、2024 年総会で協賛を得、2026 年総会で同意を得て確定させ、その後発行することになっていました。

祈祷書改正委員会は研究や改正作業を精力的に行なっており、「祈祷書改正ニュース」でその活動について情報発信されています。これまでに新しい詩編、主日聖餐式聖書日課は主教会の了承を得て、試用が始まっています。しかし、今年の総会で協賛を得るまでには至りませんでした。総会当日には幾つかの式文を提示してくださるとのことです。報告を丁寧にお聞きし、さらにもう一総会期の祈祷書改正委員会設置継続の議案が提出されます。

他の議案としては、委員会設置継続の議案、聖公会年金加入者に関する議案など、また宣教協働区に関する議案が代議員から提出されています。

＊　　＊

聖職数の減少、信徒の高齢化と信徒数の減少、財政の逼迫など厳しい課題を抱える日本聖公会ですが、そのような状況のなかでも、各教区、教会がそれぞれの地域にあって隣り人として活き活きと宣教する共同体であるために、ともに祈り、協議する総会となるよう、お祈りくださるようお願いいたします。

≪特集≫

聖公会の神学校から

― 神学教育の理念と構想・
実践を展望する ―

聖公会神学院

2024 年度　聖公会神学院の神学教育について

聖公会神学院　校長　司祭アンデレ　中村　邦介

Ⅰ. 神学教育の基軸

いつも聖公会神学院のためお祈りとご支援を頂き、心より感謝申し上げます。

昨年度は、本科（3年間）に神学生が1名（中部教区）入学しましたが、今年は残念ながら入学者は与えられませんでした。しかし御周知のように神学生の激減という事態に、23年度から新たにオンラインによる「信徒の奉仕・召命コース」（受講者4名）と「特任聖職特別コース」（受講者2名）を開始しました。

オンラインによるコースは、信徒の働きを見直して活性化するために、また自分の仕事をもちながら聖職のミニストリーに参与するための教育課程です。このような新たな神学教育の理解が浸透して、日本聖公会の奉仕職に参与するプラットホームが更に豊かに広がることを願っています。

同時にこの数年間、本校は現役教役者の継続教育に力を入れてきましたが、昨年は6月「教役者宿泊研修会」を開催し、現在取り組まれている「祈祷書改正」について学びました（参加者28名）。また24年2月にも「祈祷書改正委員会」に協力し、2名の礼拝学者を招いて「コンサルティングと講演会」を本校で行ないました。8月は「エルサレム・スタディツアー（参加者信徒8名、聖職2名）」を実施しました。研修修了後に「ハマスとイスラエル」との闘いとイスラエルによるガザへの侵攻が勃発しました。パレスチナの苦難の状況が一層深刻化しています。今後エルサレム「聖ジョージ・カレッジ」との関係を継続して、今後のことについて協議していきたいと考えています。また11月にはAnglican Seminary Deans Network（ASDN）という会合が直接日本で開催され、今後3年間の具体的な連携と交流について協議しました。また24年3月には「説教セミナー（第1回）」を行ないましたが、これについては今年度の課題の中で、更に言及したいと思います。

22年ランベス会議のテーマ「神の世界のための神の教会―ともに歩み、聴き証する」を受けて、23年に掲げられたランベス・コールは、特に「弟子であること、弟子となることを自覚化して歩むこと」に大きな強調点をおいています。この意味で、神学教育は、全ての信徒（聖職と信徒）

が、改めて「弟子であること、弟子を生み出すこと」を軸にして展開したいと考えています。

Ⅱ.2024年度の主な行事とプログラムについて

今年度の主な行事及びプログラムとしては、以下の項目を実施する予定です。

(1) 24年度の在学生（本科及びオンライン受講者）

本科：川島創士（2年次）
オンライン「信徒の奉仕・召命コース」：森田誠也（九州）、佐藤　群（とも）（九州）川原忍氏（九州）及び　「特任聖職特別コース」：中山玲子（東京）、有賀忠幸（東北）
＊その他、昨年度（23年）オンライン「信徒の奉仕・召命コース」と「特任聖職特別コース」の受講生（4名）も学びを継続しています。
＊継続教育（特別研究生）：執事中村真希（東京教区）

(2) 聖公会神学校（アジア・太平洋地域）校長（Anglican Seminary Deans Network Asia-Pacific）会議（ASDN」

昨年11月に本校で開催されたASDN会議は、神学教育における相互の連携・協力を推進するために、これから3年間、3つのブロック（オセアニア、フィリピンを中心とする東南アジア、韓国と日本の東アジア）に分けて具体的なプログラムを展開することになりました。24年度は韓国から聖公会大学（神学校）のファカルテイが日本を訪問する予定です。本校では神学生をフィリピン聖アンデレ神学校に派遣（短期滞在）する予定です。これらすべての活動の資金は米国聖公会のニューヨークのトリニティ教会の「Leadership Development Initiative Grant」からの支援によりますが、その申請の受諾の結果を受けてから、これらの具体的な計画と実施がスタートすることになります。特に来年度（25年）はかなり大掛かりなプログラムが各ブロックまたブロック間で行なわれる予定です。これらの神学校はほぼ共通して神学生、また神学教育者の不足という課題があり、また継続教育と信徒教育に力を入れています。

このような各神学校の課題について、その取り組みの内容や方法について互に学び合うこと、また神学教育（海外）のネットワークを構築する上でも非常に有益です。昨年の会議にはCommission for Theological Education in the Anglican Communion（CTEAC）のアドバイザーとUSPG（The United Society Partners in Gospel）のディレクターも参加して、全聖公会的にランベス・コールの「弟子である」を目標にして神学教育を展開することが確認されました。私の個人的期待としては、日本聖公会の聖職が韓国の聖公会大学のFX課程（Fresh Expression of Church）や韓国の社会宣教、信徒教育への取り組みに学ぶ研修（期間は2～3週間）を実施できればと願っています。また更に日本人聖職が韓国語や中国語を学ぶ人材養成の支援も、今後の緊迫する東アジアの情勢を考慮する時必要になるかと思います。

(3) アジア学院（Asian Rural Institute アジア・アフリカ中堅農業指導者の養成を目的）

アジア学院より日本聖公会への協力要請があり、本校も教育活動の連携の可能性を検討しています。一つはUSPGのGlobal Youth Discipleship Programmeとしてアジア学院で7月3日（水～21日（日）に予定されている「農作業とグループ・ワーク」に日本聖公会の管区事務所と共に参加者を募り協力することです。またアジア学院で1年間また半年の滞在ボランテイア（滞在費・食費の支給あり）も求められていますので、これに参加する有意な人材も募集しています。

最後に計画されていることは、今年度開催を予定されていました「非暴力トレーニング」「尊厳のリ－ダーシップ」研修についてです。このプログラムも米国のトリニティ教会の基金による支援要請を行なっていますが、今年の10月まで支援要請の受諾の可否が延期されたため、実際の実施は2025年2月頃（予定）になりました。この研修も管区と協力して、聖公会の信徒・教役者の参加を呼び掛けたいと考えています。特に全聖公会で「セーフ・チャーチ」という課題がありますので、この趣旨に非常に合致した研修内容だ

と思います。

(4) オンラインコースのスクーリング

23年度「信徒の召命・奉仕職コース」及び「特任聖職特別コース」の受講者が2月に本校に集まり、幾つかの特別講義と聖書の言語、授業の振り返り、面接をして、礼拝を含む共同生活共にしました。直接お会いして受講者の状況を理解する貴重な機会となりました。今年度も2025年1月～2月に日程を設定して実施します。

(5)「説教セミナー」について

3月12日(火)～13日(水)　平野克己先生(日本基督教団代田教会牧師)をお招きして今回は東日本(東京・北関東・東北・北海道教区)の教役者に呼び掛けて、第1回のセミナーを実施しました。参加者は5名でしたが、非常に有意義な研修となりました。今回の「説教セミナー」では、これまでの説教者から一方的に会衆に伝達される説教から会衆である聴衆自身の中で出来事となる説教の新たなアプローチという大きなテーマです。ランベス・コールで指摘されているように聖公会では特に説教が最も重要な課題となっています。宣教的教会の形成に向けて、まず優先的な取り組みとなるでしょう。今年度は、第2回目のセミナー(説教作成のワークショップ)として8月5日(月)～8日(木)に実施する予定です。今回参加できなかった教役者も含めて参加できるようにしたいと思います。

(6) 礼拝音楽プログラム

Ⅰ　5月6日(月・祝)14:00
「朗読とオルガン演奏」:
朗読　奥寺　健(フジテレビ　アナウンサー)
オルガン岩崎真実子(神学院オルガニスト)

Ⅱ　10月12日(土)
講演「牧師館の娘たち」～ヴィクトリア時代の教会と音楽:
講演者　山口みどり(大東文化大学教授　社会学)
オルガン岩崎真実子(神学院オルガニスト)

Ⅲ　2025年1月13日(月・祝)
「冬の唱詠晩祷」

ウイリアムス神学館

「内に深まり、外に広がる」

ウイリアムス神学館　館長　司祭 ヨハネ　黒田　裕

いつもウイリアムス神学館をおぼえご加祷とご支援をいただき心から感謝申し上げます。とても悲しいことですが、能登半島地震で幕を開けた2024年。震災から間もなく、祈りと共に本館礼拝の信施から学生会を通して、被災当時から子どもたちの居場所づくり支援をしているNPO団体に献金をおささげしたことでした。犠牲となった方々の魂の平安とご遺族への主の慰め、生活を再建中の方々、現地で支援している方々のご健康と安全をおぼえ心からお祈り申し上げます。ウクライナおよびガザに侵攻している強権的軍事国家の一早い撤退と平和の実現を心から願い祈ります。そのような内外の情勢のなか、ランベスコールや「日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ」を踏まえつつ、教会がどのようなヴィジョンを描き主に従う祈りと奉仕を実践していけるのか、神学教育の重要さをひしひしと感じる今日この頃です。

(1) 新年度を迎えて

今年度は大変喜ばしいことに本科への入学者が1名与えられました。昨年度に引き続き本科

生は2名です。春は出会いの季節でもありますが別れの季節でもあります。それぞれ1名の卒業生と修業生を送り出したことに加え、5年間ご奉仕くださった前田伸子主事が昨年度末で退任されました。これまでのお働きに感謝しつつ、今後は協力委員として随時サポートしてくださいます。今年度からは山田敦子主事が主事室長に就任、津田華枝主事とともに本館の事務・教務を支えてくださいます。さらに履修要項の記載に間に合わなかったのですが、この4月からは協力委員、スピリチュアル・ディレクターとして古本みさ司祭が本館をお手伝いくださる予定です。専任もしくは専任に近い主事と非常勤の主事補がいる、という体制がとれなくなって久しい神学館の試行錯誤は今も続いています。

昨年度は残念ながら不開講となりました「今さら聞けない⁉キリスト教」講座ですが、今年度は本館教授・同志社大名誉教授の越川弘英先生を講師に「礼拝と宣教」編を開講します。なお、過去の講座も随時視聴可能ですので、どうぞご利用ください。詳しくは各教会にお届けしている案内のほか本館に直接ご連絡いただくか、ウイリアムス神学館公式HP「キリスト教講座」のページをご覧ください。HPにつきましては、昨今の情報環境の急速な変化に対応するためにこの度リニューアルいたしましたので次のURLにてお開きください。https://www.williams-theol.com/

（2）内に深まり外に広がる

私自身がヴァージニア神学校（VTS）のD.Min（ドクター・オブ・ミニストリー）コースで学ぶ生活も5年目を迎えました。最短年度は4年ですが論文執筆にはもうあと1年必要との判断から延長することにいたしました。コース・ワークは昨年中に無事すべての単位を取ることができましたので、今後この取り組みは博士論文のみとなります。このコースでの霊性神学の学びを5年前から本館の神学教育に随時還元していることはこれまでも本欄でお伝えした通りです。

その柱となる「霊性の形成と変容」クラスも5年目を迎えました。昨年度は工藤信夫著『信仰による人間疎外』及び『真実の福音を求めて』を分かち合った後にH.J.Mナウエンの霊性に基づいて司牧と宣教の課題について省察しました。このクラスで月1回程度行なってきたN. T. ライト主教著『シンプリー・ジーザス』の読書会も終えることができました。今年度は、4月からの2ヶ月間は後述する特別集中講義がこの時限にあるため6月からのスタートとなります。まず初めにダニエルJ.シーゲル、ティナ・ペイン・ブライソン著、桐谷知未訳、『生き抜く力をはぐくむ　愛着の子育て』（大和書房、2022年／原著Daniel J. Siegel and Tina Payne Bryson, The Power of Showing Up, New York: Ballantine Books New York, 2020）の内容を分かち合った後に、霊性神学の歴史的展開を学び、最後にボンヘッファーの『共に生きる生活』を用いて、祈りと黙想のうちに教会の司牧と宣教をめぐる霊的な課題について分かち合っていければと考えています。

最初に挙げた『生き抜く力をはぐくむ…』は脳神経学に基づいた子育てに関する本ですが、ここでの議論はあらゆる人間関係にあてはまるものです。さらに、本書では読者が自己自身についての「一貫した物語」を見出し語ることに主要な焦点が当てられています。20年以上前から神学校周辺では、人間関係における適正な距離を保てないひとが増えてきたのではないか、ということが度々議論され、その結果「人間関係トレーニング」を設けたこともありました。私見によれば、この課題は、司牧者に必要と思われる感受性というものは養成・訓練されうるものなのか、という問いでもあります。そのようななか、感受性が養われるのは自己についての「一貫した物語」を探り、見出し、語れるようになる過程においてではないか、ということに気づかせてくれたのがこの本でした。そこで本書をこのクラスの予備的作業に用いたいと考えたわけです。

以上はいわば「内に深まる」ことを期待する取り組みですが、今年度は「外に広がる」プログラムも満載です。4月からの2ヶ月間、かつて米国研修で大変お世話になったヴァージニア神学校

のジョン・イェー教授が研究休暇のため神学館に滞在されます。その間、新約学に関する「特別集中講義」（週一回、全12コマ）と2回の公開講座を予定しています（詳しくは各教会にお届けした案内をご覧ください）。またこの2ヶ月間は秋に予定されているカナダ研修の語学研修期間としても位置づけられています。カナダ研修はこれまで行なってきた英国および米国に続く海外研修で、アングリカニズムの源流を訪ねる旅の完結編となります。次回からは世界に広がる聖公会を訪ねるというコンセプトのもと、アジア、オセアニア、アフリカ等への旅を計画しています。また今年は、ランベスコールに応答するかたちで昨年から本格的に動きはじめた「聖公会神学教育協議会」（CTEAC）、「アジア神学協議会」（ATC）、「アジアの諸神学校の校長会」（ASDN）関連の会議に基づいた実施計画が実行に移され、神学生・教員の交流とそれを通した学びが展開される年となるでしょう。さらに来年2月には、昨秋開催した「医学と宗教」に関する講演会の継続企画として、国内外からゲストを招いてパネルディスカッションを行なう予定です。

これらの取り組みは、「内に深まる」ことと「外に広がる」こと、という別々の事柄を両方ともしましょう、というよりも、自己の内面で神の前での自己認識を深めることが必然的に神と他者へと開放されていく（Ⅱコリ6:11-12）という展望に基づいたものといえます。

（3）財政面での課題

昨年には旧京都教区ビルが取り壊され、現在その跡地ではマンション建設が進んでいます。神学館を含む敷地の北側を将来的にどうしていくかも教区的な課題です。それは本館のみならず、本質的には、今後教区として神学校をどう位置づけるか、という教区の大きな宣教的、経営的課題と言うことができます。

最後に、永年に亘る継続的な課題としては、やはり財政の問題が挙げられます。既に恒常化していますが、低金利時代が続き基金が果実をほぼ産まなくなっていることから、依然として財政難であることに変わりはありません。今後とも神さまのみ旨にかなう神学教育のため皆様のご加祷とご支援をいただきますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

祈祷書改正に関するコンサルテーション

― 改正祈祷書について新しい理解や視点を取り入れることを目指して ―

祈祷書改正委員会　司祭　ダビデ　市原信太郎

我々の祈祷書改正作業は、ようやく試用版の発行というフェーズまで来た。しかし、実際の試用版発行にあたって、知識に乏しい我々の能力のみでは神学的に不安な部分があり、また世界聖公会全体という観点も十分とは言えない。

2024年2月19日（月）～24日（土）の予定で、世界中から著名な礼拝学者が多数参加する聖公会国際礼拝協議会（IALC）が韓国において開催された。この機会を生かし、通常では招聘の困難な2名の国際的な典礼学者に日本に立ち寄ってもらい、コンサルティングを受けることで、その専門知識を元に、改正祈祷書について新しい理解や視点を取り入れることを目指し、2月26日（月）～3月1日（金）の予定で、聖公会神学院を会場に、祈祷書改正に関する集中的なコンサルテーションプログラムを実施した。この実現にあたっては、聖公会神学院より大きな支援を受

けたことを、特記して感謝申し上げたい。

今回来日されたのは、筆者の留学時代の指導教官でもあったリゼット・ラーソン-ミラー師（米国聖公会　ベクスレー・シーベリー神学校教授）とアイリーン・スカリー師（カナダ聖公会　信仰・礼拝・宣教担当ディレクター）のお二人で、ラーソン-ミラー師は主として専門のサクラメント神学の観点から、スカリー師はカナダ聖公会の礼拝担当ディレクターとしての経験から、それぞれ異なる見地でのアドバイスを仰いだ。

コンサルテーションは、分野ごとに作業チームに分かれて進めていることから、それぞれのチームが主導する形で行なった。まずは、その分野における重要な改正のポイントをお二人に提示し、質問されたことに答える形で、現状を共有した。そして、この当方よりの現状報告に基づいて、様々なアドバイスを頂いた。

このプログラムが始まるまでは、言葉の壁もあってどうなることかと少し不安だったが、いざ各セッションが始まると、とても内容の濃い会話がなされ、事前の期待をはるかに超えて有意義な時間を過ごすことができた。特に、これまでの作業に欠けていた神学的な視点や、われわれに不足している知識を提供して頂いたことは大変有意義であった。お二人の豊富な知識と経験で、私たちに足りないものをアドバイスしてくださったこともさることながら、私たちの現状報告に対する質問を通して、私たちの側が逆に問題そのものを改めて考えさせられたことも数多く、取り組んでいる課題をさまざまな視点から新たに学び直す機会ともなった。この結果は、今後の改正作業において重要な役割を果たすものと確信している。

また、今回のこの貴重な機会を一般の方々とも分かち合うべく、2月28日（水）の夜、公開講座を開催した。お二人には過分な負担をおかけすることになったが、世界聖公会における現代「礼拝学」への窓口として、素晴らしい内容の講演を頂いた。急な案内で、平日の夜ということもあり、会場での参加は多くはなかったが、YouTubeを通して全国の方々に視聴して頂けたことはよかったと思う。これについては、現在でも録画を視聴することができ（https://bit.ly/3SXAhdo）、また現在当日の原稿をテキストで公開できるよう準備を進めている。お二人がそれぞれの専門分野で日本の教会に投げかけた重要な問いとともに、私たちと知識を分かち合う機会を与えてくださったことに感謝する。

お二人からは、今回のプログラムを通して、私たちから逆に多くのことを学んだと言っていただいた。また、様々な交流を通して、日本の教会や文化を学ぶ機会にもなったようで嬉しいことであった。

今回のプログラムを通して、お二人と個人的な知己を得た各改正委員からは、疑問が生じると直接メール等で問い合わせるということが行なわれるようになっており、すでに具体的な作業への好影響が現れているのは喜ばしいことである。また、お二人もこのプログラムを一度きりの機会にせず、今後も対話を続けていきたいという嬉しいお言葉を頂いている。

改正作業は孤独な作業でもあり、気が滅入るようなときも少なくないが、その中で我々の作業が世界中の方々に支えられているということを実感することができたのは、大きな恵みであった。今回のスカリー師の訪問に際し、カナダ聖公会首座主教のリンダ・ニコルズ師から委員長である笹森主教宛に手紙を頂き、カナダ聖公会と日本聖公会が長年にわたる親しい関係を築いてきたことの上に今回のプログラムがあり、そして日本聖公会と祈祷書改正のために祈り続けているという、素晴らしい励ましの言葉を頂いた。この手紙にあるように、「私たちは互いに学び合うことで、コミュニオンとしてより強くなる」と、このプログラムを通して改めて強く確信している。

京都教区「2024 春 J's キャンプ@北陸」 の報告

(2024 年 3/25 ～ 3/29)

①自教区における「平和学習」
②能登半島地震被災地でのワーク

京都教区宣教局教育部　司祭　アンデレ　松山健作

昨年の沖縄における平和学習に引き続き、この度は自教区における平和学習と能登半島地震被災地でのワークを含む「J’sキャンプ（中高生対象）」を企画しました。例年の参加者は受験生が多く、また被災地を巡るキャンプとあってか、参加者を得ることが近年に比べ非常に困難でした。京都教区では、中部教区や繋がりのある沖縄教区にも声をかけさせていただきましたが、参加者は4名、学生スタッフ2名、スタッフ6名の総勢12名でのキャンプを、閉園した石川県羽咋にある「しお子どもの家」を拠点に実施しました。

キャンプは、福井聖三一教会から出発し､1945年の福井空襲と1948年の福井地震に学び、空襲では1,576名の尊い命が失われ、戦後4,000名弱の死者をもたらした福井地震の被害について学びました。また鯖江には、歩兵36連帯があったことから平和祈念館があります。日本が南洋諸島や東アジアに侵攻し侵略戦争を展開した歴史が足元にあることを感じました。

また環境や自然、平和について考えるきっかけとして、石川県の志賀原発と中部電力と関西電力が1980年代から原発建設予定をしていた珠洲の高屋と寺家においてフィールドワークを行ないました。珠洲は、能登半島地震で94%が断水している地域です。海辺は多くの箇所が隆起し、山は崩れ、津波の被害が非常に大きく、たくさんの住民が避難しています。このような大きな地震が起こるところに、電力会社と日本という国は原発を建設して、安全性を謳おうとしていたことに恐れをおぼえました。フィールドワークの講師には、珠洲市在住の北野進さんを迎え、石川県における原発誘致と脱原発の取り組みについてガイドをしていただきました。北野さんは、「本当に珠洲に原発ができなくて良かった」と振り返っておられました。もしできていて事故が起こったとしても、能登半島の地形上、道が寸断されて避難することさえ困難であったということでした。住民の避難経路さえ確保できないところに原発が誘致されていくというずさんさに住民の命を軽視する国の姿勢も見える気がしました。

また珠洲での2日目は被災地のワークとして、

珠洲において珠洲焼をされている信徒さん宅が全壊しており、崩れた薪のお片付けをお手伝いしました。能登半島地震により地殻変動が起こり、大きく損壊した家屋を目にすることは非常に痛ましさを感じる経験となりましたが、力を合わせて支え合うことで希望を見出す瞬間ともなりました。このワークは、京都教区の能登半島地震対策室へと引き継がれていくことになりました。

富山では、日本四大公害病のイタイイタイ病について学びました。大正時代ごろから富山県の神通川流域で発生した公害病です。患者や家族の健康に深刻な被害をもたらし、また差別を受けることでさらなる傷を負っていきました。当日は、患者さんのご遺族からも体験談を聞き、イタイイタイ病の恐ろしさやまた公害によって起こる差別についても学びながら、昨年訪れた基地のある沖縄の状況、また原発のある地域社会における差別などについても想起するキャンプとなりました。

今春のキャンプは、大斎節の聖週に実施するということもあり、聖木曜日の礼拝（洗足式）や聖金曜日の礼拝にも参加し、イエスさまの十字架を思い浮かべながら歩むキャンプとなりました。「2024 春 J’ s キャンプ」は、日本聖公会管区の平和活動宣教資金の援助を受けて中高生たちが参加しています。たくさんの祈りと援助を毎年いただけますことを心より感謝申し上げます。

京都教区宣教局教育部においては、引き続き「平和」をテーマに J’ s キャンプを実施していきたいと願っております。今後ともお祈りいただけますようにお願い申し上げます。

キャンプの振り返り

福井聖三一教会　吉村　東真

（キャンプ時は中学 3 年、現在は高校 1 年）

今回の J’ s キャンプは、キャンパーが 4 人、スタッフが 8 人、計 12 人の少人数でのキャンプでした。最初は少し心配でしたが、みんなで楽しい時間を過ごすことができたので、すごく満足しています。

スタートは地元の福井からで正直、学ぶことはあるのだろうかと思いながらの出発でした。しかし、いざ行ってみると知らないことも多く良い学びの時間をもてました。

石川県での原発の話を聞いて、沖縄での辺野古基地建設のことを思い出しました。くにや大きな会社などの強い力を持つ人たちが推し進めてしまうことが残念に思いました。また、崩れた家を何軒も見て、まだまだ復興までの道のりは遠いのかなと思いました。被災地にじっくりと寄り添うことが必要だということを今回学びました。

富山のイタイイタイ病資料館では、沖縄のハンセン病による差別を思い出しました。根拠のない情報を容易に信じ、それが差別につながると思ったので、情報を自ら主体性を持って集めようと思いました。

世界の聖公会の動向

☆カンタベリー大主教によるイースター・レター
☆スコットランド聖公会（SEC）がジャマイカへのエキュメニカル巡礼に参加
☆アングリカン・コミュニオン総主事によるイースター・メッセージ

管区事務所渉外主事　司祭　ポール・トルハースト

● カンタベリー大主教によるイースター・レター

食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、あなたはこの人たち以上に私を愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、私があなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは「私の小羊を飼いなさい」と言われた。二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、私を愛しているか」ペトロが「はい、主よ、私があなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「私の羊の世話をしなさい」と言われた。三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、私を愛しているか」ペトロはイエスが三度目も「私を愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。私があなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「私の羊を飼いなさい。」

（ヨハネによる福音書 21 章 15 － 17 節）

ペテロの混乱と悲しみは、イエスの明白な教えときわめて対照的です。昇天前のほぼ最後となる姿をガリラヤ湖畔で現わされ、弟子たちと親しい交わりをもち、食事を共にされました。この一見シンプルな出来事には、いわゆる魚・火・パンといった基本的で物質的なものによる象徴性が満ち、この日常的な行動にこそイエスを愛し従う人々に向けて弟子たちが行なうべき配慮のたとえとなるのです。私の羊を飼いなさい！主はそう命じられ、教会はこの二千年間イエスの足跡に倣ってそれを実行しようとしてきましたし、これからもそうし続けるでしょう。

しかし、教会の牧会的な証しや配慮は時に複雑で不完全で、満足いくものではありませんでした！私たちは何度もパンを石に、ワインを苦い胆汁に、火を拷問と死に変えてきました。何世紀にもわたって、私たちは互いに敵対し、私たちは愛の名のもとに互いを顧みず、無視し、迫害し続けてきたのです。

昨年はなんと苦しい年だったことでしょう！聖地の中心は殺戮と混乱に支配されました。私は 10 月エルサレムを訪れ、現地の聖公会のコミュニティや他のキリスト教の伝統を支援し、ガザやその他の地域の人々の苦しみについて学びました。

ナゴルノ・カラバフからアルメニア人家族が大量に脱出した後の10月初旬、私はアルメニアにいました。またつい2か月前にも再びウクライナを訪れ、戦争の絶望的な影響を目の当たりにしました。これらの紛争に巻き込まれ、暴力によって負傷したすべての人々は、暴力によりトラウマを負った人々と同様に、まるですべてに終わりも復活もないように思えてしまうでしょう。

しかし、このような状況の中でも、まだ希望はあります。なぜなら偉大な羊の大牧者であるイエス・キリストとして、神がわたしたちの前におられることを知っているからです。キリスト者は、人間の望みが何度も何度も砂地に突き落とされる現

実を知りながらも、同時に死に打ち勝たれたキリストがすべての人々に希望をもたらすであろうことを深く共有しています。だからこそ、絶望によってこの世界の前途が危ぶまれるようなことを許すわけにはいかないのです。今はまだ恐ろしい紛争と危険の時代ですが、私たちの信仰は、平和をつくり和解をもたらすキリストにあります。

このイースターに、皆さんの信仰が強められ、宣教の働きが祝福されるますように。そしてこの1年、キリストの羊を飼うとはどういうことなのかを一緒に学ぶことができますようにと祈ります。

＋ジャスティン・カンター
ジャスティン・ウェルビー大主教
カンタベリー大主教

● スコットランド聖公会（SEC）がジャマイカへのエキュメニカル巡礼に参加

SECのマーク・ストレンジ首座主教は、このほどスコットランド聖公会と合同改革派教会の議長らとともにジャマイカへ巡礼した。

巡礼の焦点は「関係の修復」であり、教会・政治家・大学との会合、かつての植民地跡地の訪問、そして霊的な内省にも時間を費やした。

一行は、ジャマイカでの歴史的奴隷制の継続的な影響について学び、困難な過去にどう向かい合うのを考え、この問題が現在も続いていることを再確認した。

今回の旅で重視されたのは、聖公会のジャマイカとケイマン諸島教区、そして西インド諸島聖公会（管区）の大主教との会談であった。

スコットランド聖公会が、奴隷制度の負の遺産を調査している聖公会の他管区と協力できることを期待されている。

首座主教は次のように述べている。「近年、歴史的な奴隷貿易において私たちの教会のメンバーが果たした役割を深く意識するようになり、いくつかの教会を建てるために使われた資金についての様々な話を聞いています。主教会は、奴隷貿易の負の遺産とそれに関する私たちの立場について、USPGと協力し始め、また歴史的な過ちを正そうと努めています。」

● アングリカン・コミュニオン・オフィス総主事によるイースター・メッセージ

「誰かが主を墓から取り去りました、どこに置いたのか、分かりません。」　（ヨハネ20:2b）

ヨハネによる福音書のこの記述を読むと、復活の園で空の墓を発見した女性の驚きと衝撃が伝わってきます。

彼女にとっては予想外の出来事で、石は転がされ、墓は空だったのです。

彼女はイエスの2人の弟子のところへ走って行って呼び、2人もまた墓へ走って見つけたのは、十字架につけられたイエスを包んでいた亜麻布だけでした。

それは無秩序と混乱の現場でした。

現在、私たちの世界では、戦争や紛争・貧困・気候危機などの問題によって、何百万人もの人々が極度の無秩序や混乱の状況で暮らしています。

スーダンの内戦は人道危機を引き起こし、人命の損失・食糧不安・経済の衰退により、800万人以上の避難が続いています。

同様に、イスラエルとガザの紛争により、国連はガザでの飢餓が差し迫っていると宣言しました。

世界的には、汚染の増加や異常気象などの気候危機が影響して健康を害し、大勢の避難を引き起こし、飢餓のリスクを高めています。

このような紛争・苦しみ・不平等にさらされた中では、めぐみ深い神という考えは理解できないかも知れません。園でのマグダラのマリアのように、なぜ神はいなくなってしまったのかと、泣き叫ぶ自分に気づくかも知れません。

しかしマリアは、園の番人ではなく復活したキリストだと認識するのに時間がかかりましたが、物語が進むにつれて、確かにイエスが存在していることを理解します。

イエスが彼女の前に立つと、死の敗北は復活の希望によって打ち砕かれ、世界の壊れたすべてのものを再配置されます。

それは変革・平和・希望をもたらす救いの業です。弟子たちに現れたイエスが最初に発した言葉は、「あなたがたに平和があるように。父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす。」です。

総主事として、またアングリカン・コミュニオン・オフィスの役割において、私たちは、平和と復興のために現場で積極的に活動している世界中の多くの聖公会の教会と、緊密に連絡を取っています。

ここ数週間、私は内戦の影響を受けた人々を支援しようとしているスーダン聖公会を訪問する機会に恵まれました。

私はバングラデシュ（合同）教会とミャンマー聖公会を訪問し、その人々が提供する多くの重要な教会および地域社会のプロジェクトを目の当たりにしてきました。

私たちの聖公会の国連チームは、女性の地位委員会において聖公会を代表し、ジェンダー正義・エンパワーメント・貧困緩和の問題について発言してきました。

聖公会のエルサレム教区とアングリカン・アライアンスは、聖地での紛争に対する人道支援活動を継続しています。

それぞれの状況において、さらに他の多くの状況についても、私は地域社会における神の愛を目に見える形で示す、聖公会の人々の協働の証しに勇気づけられました。

このイースターに、外に出て神の希望を分かち合い、神の回復を切望する信仰を実践する聖公会であり続けられますように。混乱した世界の平和のために、一緒に働いていきましょう。

＋アンソニー・ポッゴ
アングリカンコミュニオン・オフィス総主事

■聖公会センター（NSKK神楽坂）/管区の収益事業のこれから

現在日本聖公会（管区）では、法人規則である宗教法人「日本聖公会」規則第37条「この法人は、その目的を達成するため、次の事業を行なう。」とし、「出版事業」と「不動産貸付業」の2つの収益事業（公益事業以外の事業）が明記されています。現在は、出版業として「おいで子どもたち」や「聖公会手帳」の出版、不動産賃貸業として「NSKK渋谷（元教務院の土地に3階建ビル）」と「セント・ジョンズ・ハウス　志木（分譲マンションの一室）」による収益事業を展開してきました。

今年4月からは、「NSKK神楽坂（6階建ビル）」として、聖公会センターを改装して、3室の事務所と6部屋の住宅として、所有者である東京教区から土地建物を実質無償（固定資産税等相当分の賃料を支払い）でお借りし、新たな収益事業が加わりました。すでに4部屋の住居申込があり、内見や問い合わせもあります。順調に収益が上がれば、聖公会年金へ大きな補填ができることになり、資金不足が深刻であった年金資金は30年ほどの延命ができるようになります。

1991年に東京教区と管区が共同出資をして建てられた神楽坂のビルは、これまでの30年間、牛込聖公会聖バルナバ教会のホールや牧師館、東京教区主教邸、管区事務所の会議室や資料保管庫として、利用させていただいてきました。バルナバ教会の閉鎖に伴い、管区事務所を旧礼拝堂に移転させていただき、宣教財政強化資金から工事費を支出して整備し、これからの30年間、NSKK神楽坂での収益事業により、財政基盤の安定に貢献できる予定であることを、神さまと関係の皆様に心より感謝申し上げます。

管区事務所

■本の広場

『アメリカ聖公会の歴史』

現代神学、キリスト教倫理の重要なテキストとして―

ロバート・W・プリチャード 著
西原廉太 監訳／中原康貴 訳

本書の特質と歴史的意義について、監訳者の西原廉太主教（日本聖公会中部教区主教）は以下のように記しておられる。…本書の大きな特徴は、タイトルにある通り、「アメリカ聖公会の歴史」をめぐる、既刊書物の中で最も詳しい論述であると同時に、アングリカニズム全体を歴史的、神学的に理解する上で最良の教科書となっている点にある。さらには先住民、奴隷制度、人種問題、ジェンダー、セクシュアリティーに至るまで、現代アングリカニズムが逢着する諸問題に対しても、一切オブラートに包むことなく切開を試みており、その意味では、現代神学、キリスト教倫理の重要なテキストでもある。…

本書の訳者である中原康貴司祭（日本聖公会神戸教区高知聖パウロ教会牧師）は聖公会神学院で教壇に立たれ、日本聖公会管区共通聖職試験委員をも担われる。本書「アメリカ聖公会の歴史」の日本語版刊行の意義について、訳者の立場から次のように記される。真摯に耳を傾けたい。

近年、「アメリカのキリスト教」に関する日本語の書籍が多く見られるようになった。とはいえ、そのほとんどはピューリタンや福音派の視点から書かれており、独立前のアメリカにおいて多くの州で公定教会とされ、数的に優位であった聖公会のことを抜きにしては、全体を通史的に見通すことにならないのではないかと感じることがあった。本書を通して、筆者は聖公会の歴史のみならず、長老派や会衆派がどのように大覚醒に対峙し、その後のアメリカ独立を迎えたか、また、西部開拓の中で聖公会から分派したメソジストがいかにして瞬く間に国内の最大教派になったかということを改めて学んだ。さらに著者の詳細な記述から、経済的・文化的な発展を遂げて複雑化する現代アメリカ社会において多数派ではなくなった聖公会が、変化する時代の求めに応じて何を課題とし、アイデンティティを保つための模索をどのように行ったのかを知ることができた。翻って、少子高齢化が加速する現代日本において、宗教の果たす役割を問い、新たな教会のあり方を考えなければならない今、本書は教派を超えて多くの情報を提供してくれるものであると確信し、日本語訳出版を計画した次第である。…

本書の章立ては、第1章「断片的な教会の形成」、第2章「理性の時代とアメリカ植民地」、第3章「大覚醒」、第4章「アメリカ独立戦争」、第5章「理性的正当性」、第6章「ロマン主義的反応」、第7章「ブロードチャーチ」、第8章「1920年代、世界恐慌、戦争」、第9章「教会の躍進」、第10章「教会再編」、第11章「よりスリムで軽快な教会へ」、から成り立っている。

とりわけ、今日的状況に繋がる問題に論及している第11章の小見出しを以下に記すことで、この書の巻頭で監訳者が強調された本書が果たしている今日的意義に照応させたい。

第11章「よりスリムで軽快な教会へ」（1990年～）「不一致の時代／セクシャリティを巡る膠着状態／1990年代におけるその他の対立（キング牧師記念日とフェニックスでの総会・性的不祥事・女性の聖職叙任に対する根強い反対）／教会の電子化／アングリカン・コミュニオン全体での議論／セクシュアリティ論争の結末／アメリカ聖公会再構築特別委員会／2015年と2018年の総会／総裁主教マイケル・カリー」

著者、ロバート・W・プリチャード博士の「日本語版に寄せて」の一文は、読者に向けた心温まるもので本書の持つ厚みを感じさせる。

(egidio)

□『アメリカ聖公会の歴史』　A5判・本文466ページ　発行・教文館　本体5,200円+税

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話　(03)5228-3171
FAX　(03)5228-3175

日 本 聖 公 会
NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

各教会の信徒・教役者のみなさま

改正祈祷書詩編（試用第 1 版）試用版の発行について

＋主の平和がありますように。

現在、祈祷書改正委員会によって祈祷書改正の作業が進められておりますが、この度、改正祈祷書詩編試用版の冊子が完成しましたので、各教会に 2 冊ずつお送りいたします。

改正祈祷書詩編は、聖書協会共同訳聖書に基づいて礼拝での使用のために調整する作業を日本福音ルーテル教会と一緒に行ったもので、改正祈祷書「聖餐式聖書日課」（試用版・RCL 準拠）ですでに試用を進めていただいている詩編です。

日本聖書協会から試用の為に特別に使用許諾されたものですので、複製はご遠慮ください。複数部ご入用の際は、管区事務所へご連絡くだされば、1 冊 200 円と送料の実費をご負担いただき、お送りいたします。

また、データ（Word ファイル、PDF ファイル）での公開についても準備を進めております。こちらについても、作業が済み次第ご連絡申し上げます。

聖餐式のみならず、日々の祈りや諸礼拝の中でも試用を進めていただき、祈祷書改正委員会へご意見をお寄せいただければ幸いです。

◆ご意見をお寄せ頂くには

集計の都合上、こちらのフォームをご利用くださいますようお願いいたします。

https://forms.gle/8towM4ypG9RTkLuo6

書面でのご意見は、管区事務所宛にてお願いいたします。（その際、「改正祈祷書試用版フィードバック」とお書き添えください。）

2024 年 4 月 25 日

祈祷書改正委員会委員長　主教　笹森田鶴

管区事務所総主事　　司祭　矢萩新一

日本聖公会

いのちをみつめる祈りの集い

第 16 回―キリスト者の私が平和憲法にこだわる理由（わけ）

この集いは、キリスト者である私たちが何故平和を祈り、行動するかについて、教会につながるさまざまな方たちからお話を伺い、共に語り合い、祈ろうというものです。
毎月第 2 月曜日の夜、開催してきました。

2024 年 5 月の集いは、5 月 3 日の憲法記念日をおぼえて、講演会形式とし、岡本厚さんを講師に迎え、この時代を見据えながら、「日本国憲法」についてお話いただきます。
時間を延長して 120 分間の集いです。じっくりお話を伺い、参加者で大いに平和について語り合い、そして共に祈りましょう。
洗礼の有無を問わず、どなたでもご参加いただけます。お誘いあわせの上、どうぞご参加ください。

日時：　2024 年 5 月 13 日(月) 19:00～21:00（Zoom 開室 18:45）

講演者：岡本　厚 さん（ジャーナリスト、岩波書店元代表取締役社長、元『世界』編集長）

「戦争の時代」と日本国憲法

参加方法：　事前申し込みは不要。以下の URL より Zoom に直接お入りください。

https://onl.sc/1LPhKyg

ミーティング ID: 886 5801 2800

パスコード: 222911

内容：　19:00～　第 1 部　講演
20:00～　第 2 部　参加者同士のわかちあい
講演の感想や思いを語り合います
20:45～　第 3 部　いのちをみつめる祈り

主催　日本聖公会正義と平和委員会 憲法プロジェクト
TEL 03-5228-3171

原発のない世界を求める週間 2024
６月２日(日) ～ ６月８日(土)

オンライン 講演会

100% 自然エネルギー

私たちは「原発のない世界を求めて祈り行動する者」として用いられることを望んでいます。東京電力福島第一原子力発電所の爆発事故は、多くの住民の生活や生業を奪い、長年住み慣れた土地やかけがえのない人間関係さえも破壊してしまいました。この出来事によって、私たちは「核といのちは共存できない」ことを深く心に刻むことになりました。今年の「原発のない世界を求める週間」の企画はオンライン講演会です。参加申し込みは不要です。ズームリンクからお気軽にご参加ください。

６月２日（日）　16:00～18:00

「原発政策のいつわりと能登半島地震が示したこと」

お話：内藤新吾さん

日本福音ルーテル教会牧師、NCC「平和・核問題委員会」長
「宗教者核燃裁判」共同代表、「原子力行政を問い直す宗教者の会」事務局

政府が石油やガス高騰のドサクサに決めた原発政策大転換案は、およそ時代錯誤です。
電気のために原発はまったく必要ではなく、世界では再生可能エネルギーが主流となっています。
また、地震大国日本に原発や、さらに危険な核燃料サイクル事業など、もっての外です。
なぜ政府はこんなに原子力にこだわるのか、歴史からひもとき、その謎を一緒に解きましょう。
そして、呪縛から解放された社会を築いていきましょう。

Zoom リンク：https://onl.bz/UA3pSej

ＩＤ：820 1414 1653　　パスコード：822900

原発問題プロジェクトのホームページＵＲＬ：

https://www.nskk.org/province/no-nuke-project/

主催：日本聖公会正義と平和委員会　原発問題プロジェクト

お問い合わせ：090-1983-7244（池住 圭）

2024年5月3日
憲法記念日によせて
主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。
彼らは剣を打ち直して鋤とし
槍を打ち直して鎌とする。
国は国に向かって剣を上げず
もはや戦うことを学ばない。
イザヤ書2章4節
もはや
戦うことを
学ばない
主の光の中を歩もう
第67総会期の憲法プロジェクトは、毎月第2月曜日の夜、「いのちをみつめる祈りの集い」をオンラインで開催し、キリスト者である私たちが、なぜ平和を祈り行動するのか、教会につながるさまざまなお話しを伺い、祈りの時間をもってきました。2024年5月の集いは、憲法記念日をおぼえて2時間の枠で開催します。どなたでもどうぞご参加ください。
■5月13日(月)19:00～21:00
講演　岡本 厚さん(ジャーナリスト、岩波書店元代表取締役社長、元『世界』編集長)
＊Zoom情報：https://onl.sc/1LPhKyg
ミーティングID: 886 5801 2800　パスコード: 222911
日本聖公会 正義と平和委員会 憲法プロジェクト

2024年 日本聖公会
WORLD ENVIRONMENT DAY
地球環境
のために祈る日
(6/5 世界環境デーに最も近い主日)
6/2
原発問題プロジェクト ホームページ
https://www.nskk.org/province/no-nuke-project/
正義と平和委員会　原発問題プロジェクト
原発のない世界を求める週間
6/2 (日)～6/8 (土)
オンライン講演会（Zoom）
6/2(日) 16:00 ～ 18:00
「原発政策のいつわりと能登半島地震が示したこと」
お話 ： 内藤 新吾さん
日本福音ルーテル教会牧師、NCC「平和・核問題委員会」長　ほか
100% 自然エネルギー

日本聖公会管区事務所ホームページ http://www.nskk.org/province/
☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。
comm-sec.po@nskk.org　広報主事（鈴木　一）宛て